

4 盲・聾・養護学校における情報通信ネットワーク活用の実践

盲・聾・養護学校に通学する児童生徒の多くは、自宅から遠く離れた学校に通学していたり、寄宿舎に入っています。そのため居住している地域に接する機会が少ない場合があります。障害のある児童生徒の「社会参加」と「自立」を考える上では、地域とのコミュニケーションの機会は少しでも多いことが望まれます。児童生徒が交流を行うための様々な取組がありますが、インターネットを利用することにより、距離を越えて更に積極的な交流を行うことができるものと考えられます。

今回、京都府立の養護学校1校を研究協力校として依頼し、他の都道府県を含む七つの養護学校の高等部の生徒がインターネットを通して交流することとなりました。

(1) 盲・聾・養護学校のネットワーク環境及び教育実践の概要

ア 学校の概要

A養護学校は、平成10年9月に京都みらいネットと専用線で接続され、インターネットができるようになりました。現在、校内のネットワークと接続された複数のパソコンから同時にインターネットを利用することができます。

イ 電子掲示板と学校間交流

インターネットでのコミュニケーションの手段としては、電子メールが一般的ですが、複数の人が継続した交流や情報交換を行うには不便な面があります。このような利用の場合は、電子掲示板であれば過去に交流した内容も簡単に見ることができる上にメールよりも操作が簡単であることもあり、最適な手段の一つと考えられます。次の図3-12は、今回の実践で利用した電子掲示板の画面です。

電子掲示板は、自由に自分の意見を書き込み、意見の交流を行うことができます。これは、距離や時間の制約がありませんので、遠く離れた学校で文字の入力の速くない児童生徒がその点に気を遣うことなく利用することができます。

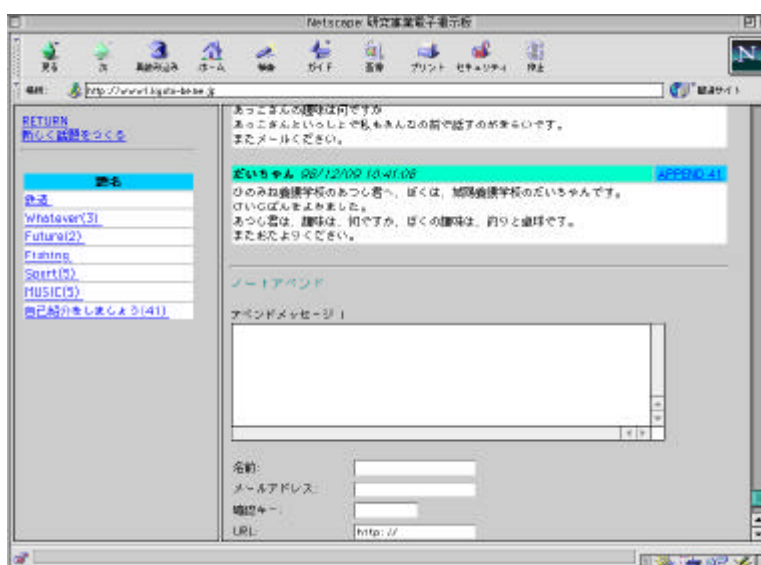


図3-12 電子掲示板の画面

電子掲示板を利用した実践としては、平成8年度から取り組まれた「チャレンジキッズ」があります。これは、マルチメディアを活用した取組として注目されましたが、専用のサーバとソフトウェアが必要であるため、今回は、フリーウェアとして提供されている電子掲示板用のソフトウェアを当総合教育センターのホームページサーバに設定して実践を進めることとしました。

ウ 実践の概要

電子掲示板を用いた交流は、高等部の生徒を対象とし、二つのねらいをもたせました。一つは、「生徒自身が電子掲示板による交流を通して自己表現することに慣れ、更に自分の将来について考えること」、もう一つは、「養護学校に在籍する生徒がどのように生活し、自分の将来をどう考えているのか情報発信を行い、地域や社会と情報を共有すること」です。ただ、この実践においては、配慮すべき事項がありました。それは、「個人情報の保護」と「セキュリティ」です。

電子掲示板に実名を公開することは、「個人情報の保護」の点から慎重に検討する必要があります。そこで今回は、生徒が「ハンドル」と呼ばれるペンネームを使用することとしました。ハンドルは、自分のニックネームを基本としましたが、この概念が使いにくい生徒があれば『ヨシオ』というような「名前」を使うこととしました。今回は、参加する生徒全員がこの「ハンドル」を考えることを一つの楽しみと感じ意欲的に取り組んでいたとのことでした。

また、電子掲示板は、誰でも読み書きできることが理想ですが、「セキュリティ」の面においては、電子掲示板に第三者が無意味な発言を書き込んだり、機能そのものを停止させられたりする可能性があります。そこで、参加校にはIDとパスワードを発行し、電子掲示板の利用者を限定して交流をすることとしました。更に、インターネットの利用者が生徒の交流の様子を知ることができるように、電子掲示板に発言された内容を編集し、ホームページから発信することとしました。次の図3-13が「電子掲示板発言ログ」の画面です。これに対して励ましや質問、共感などが電子メールで寄せられました。

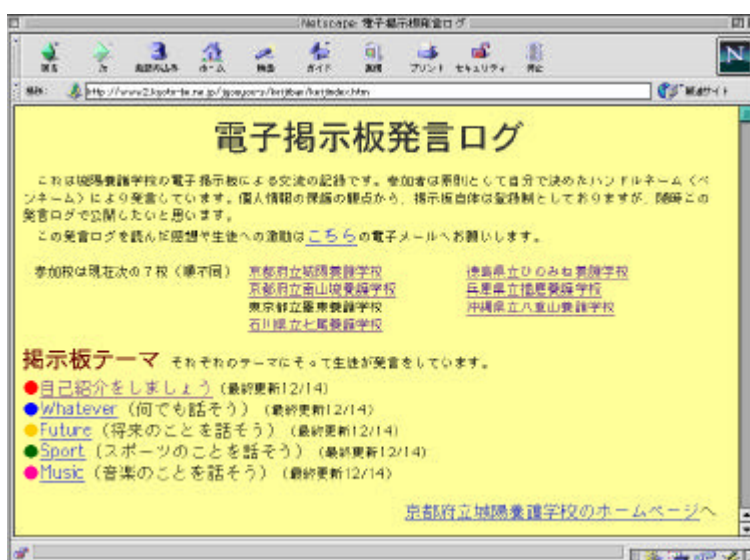


図3-13 電子掲示板発言ログの画面

エ 実践の様子

この交流の参加校として担当者が以前から交流している5校に参加を依頼し、快諾をいただきました。更に、この実践の開始後にもう一校が参加を希望し、最終的に京都府の2校及び東京都、石川県、徳島県、兵庫県、沖縄県の合計7養護学校が参加することとなりました。生徒の参加状況は、パソコンの授業の取組として複数の生徒が参加した学校や1人の生徒だけが取り組んだ学校など様々です。また、ある学校の生徒は、コンピュータにたいへん興味があり、ワープロソフトの操作などに堪能ですが、話が合う友達が近くにいないという状況でしたが、この取組を通して同じ興味をもつ生徒同士の交流が始まりました。

京都府のA養護学校でのパソコン活用の取組は、職業教育としての作業学習の一つであり、ワープロ検定試験の合格に向けて文字入力の学習をするのが基本でした。そこでは、静かに私語なく作業することが要求されましたが、インターネットと接続されたことを受けて、今までの学習内容をより発展させた学習が行われました。この学習に生徒は非常に興味を示し、授業に意欲的に取り組む中で、自然に一つ的话题を中心にした生徒間の交流が生まれ、更に外部の生徒との交流へと実践の内容が広がっていきました。

オ 実践における指導上の配慮

生徒が書いたとおりに電子掲示板へ書込みさせた場合は、マナーや文意の点で交流がうまく進まない場合が生じると考えられます。そこで電子掲示板への書込みの前に、生徒が書きたい内容を指導者が聞き、他の生徒の書込みの例で具体的なイメージを持たせたりすることにより、適切な表現になるようにアドバイスするという形で指導しました。取組の中でマナーに反する書込みをしようとした生徒がいましたが、指導者がコミュニケーションのルールを丁寧に指導することにより解決しました。

徳島県の養護学校のある生徒は肢体障害があって、通常のキーボードでは文字入力できません。そこで、指導者は、次の図3-14のワープロソフトのオンスクリーンキーボード機能を利用してマウスで文字を入力させるように指導しました。



図3-14 オンスクリーンキーボードの画面

また、生徒が交流をしている相手のイメージをより深められるように、石川県の養護学校と

は、電子メールに写真を添付して交換も行いました。電子掲示板での文章のやりとりと併せて身近な友達という意識ができたようです。

また、参加校の指導者が打合せを行うための電子掲示板を別途設け、日常の情報交換の場としました。これによって、生徒に対する指導者の適切な働きかけができました。

(2) 盲・聾・養護学校における実践の成果及び課題

今回の電子掲示板による交流は、「生徒自身がたいへん興味を持って取り組むことができたこと」「養護学校の生徒の活動を一般の人たちに知ってもらうよい機会になったこと」「一般の人からの電子メールでの励ましに、生徒たちがより一層意識を高めたこと」などの成果がありました。また、「担当者用の電子掲示板を設置し情報交換を行うことにより、生徒に適切な指導をすることができたこと」「担当者間で授業計画などの情報をやりとりすることで、電子掲示板の機能が一層発揮されることが分かったこと」などの成果もありました。

今回の実践では、「電子掲示板が、障害のある生徒にとって最良のレイアウトではなかったこと」「電子掲示板のテーマに英単語を使用したのが分かりにくかった」などの課題がありました。